

陳舜臣さんを語る会通信

NO.49 Oct. 2021

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34
 橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」
 Tel. 078-911-1671
 編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員
 発行日 2021年10月10日

『中国任侠伝』『中国詩人伝』…、『中国〇〇伝』(人物評伝)集合!

陳舜臣さんは、『中国詩人伝』『中国傑物伝』『巷談 中国近代英傑列伝』など、人物評伝がお好きです。更にあげると、『中国任侠伝』『中国美人伝』から『中国畸人伝』まであります。ここでは、これら『中国〇〇伝』、及び、これに類する作品に集合をかけてみました。といっても、手元にあるものだけですが。

本号では、これら作品の目次、並びにキャッチコピー程度にとどめ、順不同で、簡単に紹介いたします。

なお、『中国傑物伝』は、本通信第2号、『巷談 中国近代英傑列伝』は、同じく第9号で取り上げていますので、ここでは省略します。(編集委員 橘雄三)

『中国〇〇伝』(人物評伝)一覧 (単行本発行年順)

	作品名	発行年	発行社	初出
1	中国任侠伝	1973	文藝春秋	『オール讀物』1972年4月号~11月号
2	続・中国任侠伝	1973	文藝春秋	『オール讀物』1972年12月号~73年8月号
3	中国近代の群像 (原題)中国近代史ノート	1976	朝日新聞	朝日「アジアレビュー」1973年秋季号~76年夏季号
4	熱砂とまぼろし シルクロード列伝	1979	角川書店	『野性時代』1977年5月~78年6月
5	景德鎮からの贈り物 中国工匠伝	1980	新潮社	『小説新潮』1975年7月号~78年10月号
6	妖のある話	1983	講談社	『週刊読売』1973年4月14日号~12月29日号
7	中国画人伝	1984	新潮社	『藝術新潮』1977年1月号~80年12月号
8	中国畸人伝	1987	新潮社	『小説新潮』1985年10月号~87年8月号
9	中国詩人伝	1988	講談社	講談社『陳舜臣全集』27巻(1986.5~88.9)が完結。全集月報に連載した詩人を『中国詩人伝』として刊行
10	中国傑物伝	1991	中央公論	中央公論社『Will』1990年1月号~91年5月号
11	中国美人伝	2004	新潮社	『小説新潮』1991年3月号~04年1月号に随時
12	巷談 中国近代英傑列伝	2006	集英社	

8. 『中国畸人伝』

ときに狂人を装って、乱世の政争から逃れて生きた竹林七賢の一人、阮籍。本心を明かせぬまま、へらず口をたたいて中立をつらぬこうとしたが、つい

8『中国畸人伝』目次

終身、薄氷をふむ	阮籍	げんせき
へらず口二十世	孔融	こうゆう
最後の賢人	王戎	おうじゅう
神仙の系譜	葛洪	かっこう
第三楼の人	陶弘景	とうこうけい
燃える壁	万宝常	まんほうじょう
葡萄の美酒 夜光の杯	王翰	おうかん
揚州の夢	杜牧	とぼく

にへらず口が命とりになった孔子の末裔孔融。宰相職の地位にありながら、自らケチを演出し、また息子にはバカの真似をさせて、政争から身を守った合理主義者王戎。寒門出身の官吏でありながら酒宴と博打にあけくれ幾度か左遷された末に「葡萄の美酒夜光の杯」の詩を残した王翰。名門の出身ながら、揚州の妓楼に通いつづけ、生涯、理想の女性を夢みつづけて詩作した杜牧など。気宇壮大な発想と強烈な自我で、三国から唐の時代を生き抜いた八畸人の生き方と人間の面白さを、万巻の書から搾り出して現代に甦らせた歴史人物伝の傑作。(画像は中公文庫版表紙)



I 『中国任侠伝』 主な登場人物&要約

《1. 『中国任侠伝』「荆軻、一片の心」から引用》

俠者とは他人のために、自分の身をかえりみない者である。

任侠映画のやくざ、あるいは暴力団のたくい、賭場やその他あやしげな権益の奪い合いで、ドスやピストルを振りまわす。これは自分たちのグループの利害しか念頭にないのだから、任侠とはいえない。そのような者は侠客ではなく、博徒、無頼—中国語では、「流氓」と呼ぶべきであろう。

わかりやすくいえば、作者は中国のますらおぶりを描きたいのである。

《2. 徳間文庫版キャッチコピーより》

任侠—それは他人のためには自らの命をも顧みない行為である。始皇帝暗殺を試みた荆軻、齊の賢人として知られる孟嘗君、後の侠客たちが手本とした朱家…。『史記』に材をとり、壮大な中国史の舞台裏で「義」を重んじた男たちを描く。

徳間文庫版表紙 →



『中国任侠伝』目次	おもな登場人物ほか
荆軻、一片の心	荆軻(けいか)、親友・高漸離(こうぜんり)、秦王(後の始皇帝)。易水(えきすい)のほとり、別れの場面は有名
孟嘗君の客	「戦国の四君」の一人、齊の孟嘗君(もうしょうくん)は食客三千人と言われた。馮驩(ふうかん)のほか、「鶏鳴狗盗(けいめいくとう)の徒」など
虎符を盗んで	「戦国の四君」の一人、魏の信陵君、都城の門番の侯嬴(こうえい)、屠者の朱亥らが登場
首がとぶ	「戦国の四君」のもう二人は趙の平原君と楚の春申君。この時代、遊説口舌の徒、任侠の士は、「四君」を渡り歩いた。物語は趙ではじまり、楚に及ぶ
季布の一諾	章題「季布(きふ)の一諾」は「史記」の記述から引用。漢の高祖の時代、項羽の武将だった季布は落武者となり、千金の賞金がかげられる。大侠客朱家のはからいで立場は好転…。失業した遊説家・曹丘ほか脇役も活写
おれは幸運児	物語は漢の文帝、景帝、武帝の時代。天下一の人相見許負(きよふ)には、内孫・許充と外孫・郭解という二人の孫がいた。許負は二人を愛してやまなかったが、二人は…。
いざ男の時代	皇子劉徹が武帝となる時代の話である。趙群という酒造りを本業とする游侠の親分から、文人として著名な司馬相如(しばしょうじょ)まで登場する
似てくる男	楚の人田仲は魯に来て任侠道の権化のような朱家に父事、一挙手一投足、すべてを学び取ろうとした。田仲は朱家のもとに二年、父の病で帰国。数年して、湖南の大侠客になったという。この話に、長沙郊外の馬王堆墓の軼侯(たいこう)夫人が絡むのには驚き

落ち穂拾い 《長沙の馬王堆漢墓》

1972年から1974年にかけて発掘され、出土した棺から生けるが如き婦人の遺体が発見されると国際的に注目された。

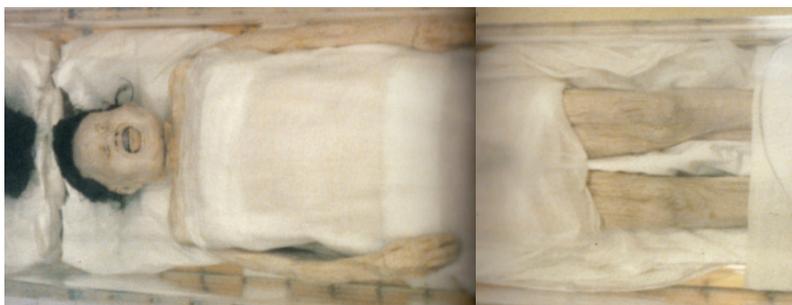
『中国任侠伝』「似てくる男」に描かれている軼侯夫人こそ、このミイラの婦人である。ミイラという

と干からびていると思うのですが、四肢の関節が動かせるほど遺体の保存状態は良好で、一躍世界的に有名になった。

左下画像は湖南出版社『馬王堆漢墓文物』より。

右上の画像、

石碑「馬王堆漢墓」の後ろの丘を登り切るとそこが発掘現場で、むき出しの墓がぱっくり口を開けている。世界史の資料集などに出てくる殷墟の凶そのままであった。



2『続・中国任侠伝』 主な登場人物&要約

《1.『続・中国任侠伝』「解説」伴野朗から》

漢の武帝のころまでの「俠のころ」を知ることは、比較的容易である。『史記』という宝庫があるからだ。問題は『史記』以後である。

「司馬遷以後、時代を下げるにつれて、書きづらくなった」と陳さん自身も、この問題を認めておられる。

だが、漢以後の世界に「俠のころ」はなかったわけではない。陳さんの筆は、馬援、班超ら後漢の英雄を活写する。

《2. 文春文庫版キャッチコピーより》



かつて日本は、古典ばかりでなく娯楽としての物語まで中国と共有していた時期があった。諸葛孔明の知謀や梁山泊の豪傑たちの活躍が日本人の血を沸かせたものである。その興奮を再現すべく、『史記』その他の中国古典に材をとり、大俠義勇の男たちを発掘した著者が、血湧き肉躍る武俠小説をここに完成させる。

← 文春文庫版表紙

『続・中国任侠伝』 目次	おもな登場人物 ほか
宿世の縁	前150年代、漢の景帝の時代。当代随一の侠客劇孟の話。性格は単純明快、子どもっぽい彼にも、「ただ一つ、誰にも言えない辛抱していること」があった。これが話の核心。
わが敵は丞相	『漢書』に材をとる。朱雲は13歳のとき、殺された遠縁の男のカタキを、その地の侠客に頼んで討ってもらう。それ以来、彼は游侠の世界に入る。「恩を受けたら死ぬまで尽くす」「受けた恨みは必ず返す」のが朱雲の身上。さて、…。
地獄への見送り	前漢末、王莽の新、そして劉秀が光武帝として即位する後漢のはじめ、侠客たちはどう生きたか、『漢書』游侠伝に材を取り、楼護、陳遵(ちんじゅん)、原涉を描く。■長沙馬王堆漢墓
さらば眉赤き巨人たち	『後漢書』に材をとる。話は、王莽の新しい時代、山東半島の南側根もと、琅琊(ろうや)で始まる。県宰に最愛の息子を殺された呂母、呂母が集めた硬派の食客集団の幹事長徐次子、眉を赤く染めた農民軍の首領樊崇(はんすう)らが登場
伏波將軍 まかり通る	『後漢書』に材をとる。前漢末～後漢光武帝の時代。主人公は馬援。幼き日、主家筋にあたる馬援の勉強の相手をさせられた朱勃(しゅぼつ)が脇役。波瀾に富んだ馬援の生涯と、朱勃のゆっくり変化の少ない40年の人生は対照的
虎穴に入らずんば	主人公は班超。後漢の將軍。西域諸国を鎮撫し西域都護となり、定遠侯に封じられた。97年、部下の甘英を大秦に派遣。章題「虎穴に入らずんば…」は班超のこぼれ
棺から出た男	『洛陽伽藍記』の記述から話は始まる。北魏も末期に近い孝明帝の時代、523年、都洛陽のある寺で一つの棺から生きた人間が現れるというできごとがおこる。さて、…
弥勒乱入	隋の煬帝(ようだい)の時代。主たる登場人物は、奇術師で游侠の徒李修と、李修のために懺悔聴聞僧の役目を務める陸統。陸統は五十を過ぎた読書や習字の先生だが、煬帝の暴虐な政権を早く終わらせねばと機会を狙っている

伏波(ふくは)將軍 ■雑号將軍の一。五品なので位はそう高くない。『三国志』に登場する夏侯惇(かこうとん)もこの官職に就いたことがある。

落ち穂拾い 《 長沙の馬王堆漢墓(続) 》

馬王堆漢墓は1972年の1月から発掘が始まり、陳舜臣さんが二つの『任侠伝』執筆時、ホットニュースだったのだろう。馬王堆漢墓のことは、『続・中国任侠伝』「地獄への見送り」にも記述がある。

「長沙馬王堆の前漢の古墳から、目をみはるような出土品が発見されたことは記憶に新しい。そのニュースが伝わったころ、私はある美術専門誌の依頼で、出土品についての推理を試みたことがある。

出土品の白眉は、いうまでもなくあのT字型の彩色帛画である。私はこれを、長安の宮廷から贈られた『賻』ではあるまいかと推理した。賻とは、死者

に送る布帛や金銭のことで、かんたんにいえば、香典のことである。」

湖南省博物館の横に馬王堆漢墓陳列館が別があり、ここに、軟侯夫人の遺体や副葬品が展示されている。

画像は「一號墓T型帛畫」長さ205cm。湖南出版社『馬王堆漢墓文物』より。

なお、馬王堆漢墓については、陳舜臣『中国発掘物語』に詳しい。



『中国〇〇伝』 以下、目次だけを掲載いたします

5『景德鎮からの贈り物』

金魚群泳図
拳げよ夜光杯
波斯彫檀師
景德鎮からの贈り物
墨の華
景泰のラム
湖州の筆
名品絶塵

6『妖のある話』 目次

まえがき
つらつら草
萬貴妃
鄭貴妃
世界の光
女のとし
木蘭従軍
魚玄機と薛濤(せつとう)
卓文君(たくぶんくん)
よけいなお世話
賽金花(さいきんか)
女の評判
無塩の女
傅善祥(ふぜんしょう)
美しい齒
女侠の墓
西施(せいし)
英雄色を好む
妻をめとらば
塩を盛る
芳香美人
噂にのった女
虫歯笑い
後追



講談社文庫版表紙

7『中国画人伝』 目次

龔開(きょうかい)
錢選(せんせん)
趙孟頫(ちょうもうふ)
王冕(おうべん)
黄公望(こうこうぼう)
呉鎮(ごちん)
盛懋(せいぼう)
倪瓚(げいさん)
王蒙(おうもう)
徐賁(じょほん)
戴進(たいしん)
沈周(しんしゅう)
文徵明(ぶんちようめい)
唐寅(とういん)
謝時臣(しゃじしん)
徐渭(じょい)
董其昌(とうきしょう)
米万鍾(べいばんしょう)
丁雲鵬(ていうんぼう)
呉彬(ごひん)
陳洪綬(ちんこうじゅ)
倪元璐(げいげんろ)
弘仁(こうじん)
法若真(ほうじゃくしん)
龔賢(きょうけん)
梅清(ばいせい)
八大山人(はちだいいさんじん)
牛石慧(ぎゅうせきけい)
石濤(せきとう)
石谿(せきけい)
呉歷(ごれき)
惲寿平(うんじゅへい)
王原祁(おうげんき)
高其佩(こうきはい)
華岳(かがん)
高鳳翰(こうほうかん)
金農(きんのう)
李鱣(りぜん)
黄慎(こうしん)
鄭燮(ていしょう)
羅聘(らへい)
奚岡(けいこう)
趙之謙(ちょうしけん)
任頤(にんい)
吳昌碩(ごしょうせき)
齊白石(さいはくせき)
徐悲鴻(じょひこう)
あとがき

3『中国近代の群像』 目次

それからの林則徐
皇帝になれなかった男 曾國藩
原型的是ずれ者・容闈
頼りすぎた男・康有為
講和屋一代・李鴻章
混沌たる憂国者・譚嗣同
追い越されるジャーナリスト 梁啓超
わかりやすい男・袁世凱
二流軍閥の誕生と没落 段祺瑞
乗っ取り屋一代・張作霖
揺れうごいた熱狂家 戴天仇
没落の時代に殉じた男 王国維



中公文庫版表紙

11『中国美人伝』 目次

西施	せいし
卓文君	たくぶんくん
王昭君	おうしょうくん
皇后羊献容	ようけんよう
薛濤	せつとう
萬貴妃	ばんきひ※
董妃	とうひ
あとがき	

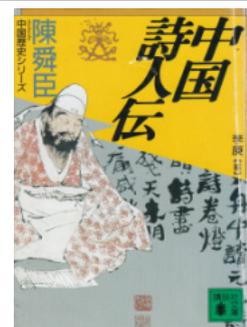
※5『妖のある話』では(まんきひ)とカナがふられている。

4『熱砂とまぼろし』 目次

法頭	ほっけん
宋雲	そううん
張騫	ちようけん
スウェン・ヘディン	
ヤクブ・ペク	

9『中国詩人伝』 目次

屈原	くつげん
曹操	そうそう
曹植	そうしよく
阮籍	げんせき
陶潜	とうせん
謝靈運	しゃれいうん
王維	おうい
杜甫	とほ
李白	りはく
白居易	はつきよい
韓愈	かんゆ
李賀	りが
杜牧	とぼく
李商隱	りしょういん
蘇軾	そしよく
王安石	おうあんせき
黄庭堅	こうていけん
梅堯臣	ばいぎょうしん
陸游	りくゆう
元好問	げんこうもん
薩都刺	さつとら
高啓	こうけい
袁宏道	えんこうどう
王士禛	おうししん
吳偉業	ごいぎょう
龔自珍	きょうじちん
魯迅	ろじん
私の好きな中国の詩 中国近代詩華抄	



講談社文庫版表紙